

短 報

ハマハタザオの紅花品種 (中井秀樹・大橋広好)

Hideki NAKAI and Hiroyoshi OHASHI: Purplish Red Flowered Form of *Arabis stelleri* var. *japonica* (Cruciferae)

北海道北部宗谷支庁浜頓別町ベニヤ原生花園で紅花ハマハタザオを見出した。当地ではハマハタザオはふつう海浜砂丘の草地に生育するが、この紅花品種はミズナラなどからなる海岸林の林縁に見られ、そこは砂丘地と比べると比較的土壌が発達した所である。花卉の基部が紫紅花を呈するが、葉形などはハマハタザオと変わりがない。ハマハタザオの根出葉は裏面がしばしば紫色を帯びるが、そのような個体でも花卉は帯紫色となることはない。品種の階級で記載しておく。

Arabis stelleri DC., Reg. Veg. Syst. Nat. 2: 242 (1821).

var. *japonica* (A. Gray) Fr. Schmidt, Reis. Amurl. u. Ins. Sachal., 111 (1868).

Arabis alpina L. var. ? *japonica* A. Gray, Narr.

Exped. Amer. Squadr. Chin. Jap. 2: 307 (1857).

Arabis japonica (A. Gray) A. Gray, Mem. Amer. Acad. n. ser. 6: 381 (1859).

forma *purpurascens* H. Nakai et H. Ohashi, form. nov.

Floribus purpurascens vel purpureo-roseis, cetera ut in typo.

Japanese name : Benibana-hamahatazao.

Habitat: on the margin of sea shore forest dominated by *Quercus crispula*.

Type: Hokkaido; Sôya-shicho., Hamatonbetsu-cho, Beniya, H. Nakai 1001 (holotype, TUS) 1002, 1003 (isotype, TUS).

(東北大学理学部生物学教室)

ビッチュウアザミの分布 (上野達也)

Tatsuya UENO: Distribution of *Cirsium bitchuense* (Asteraceae)

ビッチュウアザミ *Cirsium bitchuense* Nakai は本州の兵庫県西部から中国山地の暖帯に分布するとされている (北村 1981)。ところが、1986年10月8日に、著者は伊吹山の岐阜県側 (温帯) で本種の自生を確認した。自生地は伊吹山ドライブウェイに沿った標高1,020 m の金明水と呼ばれる水場で、周辺にオオイタヤメイゲツ林のある南東向き斜面の草地であった。著者はそこで約40個体から成る集団を観察し、3個体を採取した。また、伊吹山ドライブウェイより笹又に通じる道の標高900~1,000 m 付近でも、南向きの湿った林縁や林内に多数のビッチュウアザミを観察した。

Fig. 1は、国立科学博物館 (TNS)、東京大学理学部 (TI)、京都大学理学部 (KYO) の各標本

庫の所蔵標本、および、Kitamura (1937)、岡ほか (1972) に挙げられる証拠標本の産地に、今回の新産地を加えたビッチュウアザミの分布図である。分布の表示は日本シダの会 (1979) の調査メッシュに従った。Kitamura (1937) に記載され、かつ、3標本庫に所蔵されていた標本の内で、最も東に位置する産地は兵庫県豊岡市気比 (けい) (但馬国絹巻国有林。Z. Tashiro, Nov. 8, 1936, KYO) である。伊吹山の新産地はそれより東方に約140Km 移った位置にある。また、新産地の標高は、著者が確認した標高を明示する引用標本のなかでは最も高い。なお、新産地の標本は国立科学博物館標本庫に納めた。

本稿をまとめるにあたり、御指導いただいた元